

河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management



淀川河川公園・施設広場地区(太間地区)

ニュースの項目

【巻頭言】…………… P2

国土交通省水管理・国土保全局
河川環境課長 金尾 健司

【特集 スポーツの秋、河川健康公園をご活用ください!】…………… P3

【報告事項1 調査研究等】…………… P4

1. 「第10回河川環境管理財団研究発表会」の開催
2. 「河川研究セミナー」をシリーズ開催
3. 河川塾(初等科・高等科)活動報告
4. H23年度優良業務及び優秀技術者表彰

【報告事項2 河川教育関係】…………… P6

1. 平成24年度「全国中高生子ども水フォーラム～未来につなぐ水のリレー～2012」の開催
2. 「子ども森水キャンプ」の開催
3. 「川の指導者(RACリーダー)養成講習会」の開催
4. 「川に学ぶ体験活動全国大会 in みちのく」の開催

5. 「全国の水難事故マップ」の更新

【公園・施設管理コーナー】…………… P9

1. 「ゴルフ・ジュニアレッスン」を開催しました
2. 改修整備した雁来健康公園は利用者から大好評!
3. 庄内川幸心健康公園施設撤去訓練実施
4. 平成24年度木曾三川連合水防演習・複合型災害防災訓練にブースを出展
5. RACリーダー・Eポート指導者養成講座を開催(平成24年7月14日～平成24年7月16日)
6. 木曾川 長良川 自然観察会を開催(平成24年9月16日実施)
7. 第95回淀川自然を楽しむ会開催報告
8. 平成24年度河川美化・緑化助成事業(植樹)の決定

【河川整備基金コーナー】…………… P12

1. 平成25年度河川整備基金助成事業の募集

【出版紹介】…………… P12

1. 「川を活かした体験型学習プログラム」

2. 「水辺の安全ハンドブック(改訂版)」

3. 「安全な川遊びのために」DVD配布(継続)

【お知らせ・募集】…………… P13

1. 「第19回河川整備基金助成事業成果発表会」のお知らせ
2. 河川整備基金助成事業研究成果表彰
3. 河川環境管理財団地方事務所研究発表会の開催案内
4. 河川技術研修会の開催案内
5. 「平成24年度川に学ぶ全国事例発表会」の開催
6. 第12回「プロジェクトWETファシリテーター講習会」の開催
7. 「平成24年度プロジェクトWET & ワールド合同全国大会」の開催
8. 第18回42.195km 淀川河川公園リレマラソン開催のお知らせ
9. 淀川河川公園秋の緑化祭(植木市)開催のお知らせ

巻頭言

大震災を経験して

河川環境課には約10年ぶりに戻ってきました。よろしくお願いたします。10年前に比べると、河川管理や水防関係の業務が加わり、河川環境課の仕事が幅広くになりました。

さて、前任地の関東地方整備局では、防災担当として、東日本大震災を経験しました。関東管内でも、利根川下流をはじめ管理する河川の被災は900カ所を越えました。また、90を越える市区町で液状化の被害を生じました。あの日から1年半が経ちましたが、東北地方をはじめ被災地では、地震や津波の爪痕が残されたままです。被災した方々には、あらためてお見舞い申し上げます。

大震災では、思いも寄らないことをいろいろと経験し、貴重な教訓を得ることができました。そのうちのいくつかをご紹介します。

発災直後、会議のため都心近くにいましたが、建物から外へ出ると、車道は車で、歩道は人で溢れ、一歩踏み出すのもままならない状況でした。公共交通機関が止まり、大量の帰宅困難者を出したのは、ご承知のとおりです。首都直下地震では、火災や建物の倒壊が加わり、想像を絶する状況になるでしょう。初動時の災害対策本部の立ち上げや職員の参集をいかに行うのか、あらためて検討が必要です。

非常体制に入り、まず苦労したのは燃料の調達です。職員の移動や被災状況調査に必要な車両の運行から、緊急復旧工事のための建設機械の稼働、庁舎や無線中継基地の予備発電にいたるまで、燃料が不足し支障が生じました。油種によって調達の困難さが違い、特に軽油に比べガソリンの入手は困難を極めました。これからは、車両や発電器を選定する際に、使用燃

料の種類を考慮する必要があります。

苦労して燃料を確保したにもかかわらず、その輸送が思うようにならない事態が生じました。

タンクローリーが調達できないこと、調達したとしてもタンクローリーから一般車両への小分けはできないこと、小分けにはタンクローリーから一度貯蔵施設に移し替える必要があること、油種によって一時保管できる制限量が違うことなど、平常時には想定していなかったことが次々と顕在化しました。このことを踏まえ、首都直下地震の際の広域的な調達を視野に、燃料の輸送と貯蔵を確保するための協定を締結することにしました。

また、長期に渡る電力不足のために、計画停電という事態を初めて経験しました。施設管理のための機器の多くが商用電源に頼っているため、信号機の消えた交差点で衝突事故が起きるなど、様々な問題が生じました。夜中に自宅に戻って計画停電に遭遇し、周りが真っ暗で静まりかえり、何もできずにじっとしている自らを顧みると、日頃の快適な生活を支えるシステムがいかに災害に脆いかということを強く感じました。

河川環境課の抱える課題は、エコロジカルネットワークの形成など河川環境施策のさらなる展開や、これからの時代にあった河川管理や水防のあり方の検討など、多岐に渡ります。今後、河川環境行政に対して関係の皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願いたします。



国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課長
かなお けんじ
金尾 健司

特集

スポーツの秋、河川健康公園をご活用ください!

河川環境管理財団は全国7箇所の河川公園を管理しています。

季節は秋、河川敷をわたる秋風に吹かれながら、思い切りアウトドアスポーツやレジャーを楽しむには最高の季節です。仲間や家族とともに野球やテニス、サッカー、フットサル。個人でジョギングやゴルフやウォーキングなど。あるいは芝生広場でピクニックやデイキャンプ。施設によっては炊事場やローラースケート場もあり、多種多様な過ごし方でスポーツやレジャーを楽しむことが出来ます。公的な施設らしく安価な利用料で、適切に管理された施設。河川と親しみながら爽やかな汗を流すには最適の空間です。また、地域のスポーツ大会やイベントの会場として使われることもよくあります。この秋、ぜひ、お近くの河川公園にお出かけになってはいかがでしょうか。本稿では、当財団が管理運営する河川健康公園を中心に、河川公園の魅力をご紹介します。

【経緯】

東京オリンピック（1964年）の競技成績が予想外に不振であったことを受け、同年12月「国民の健康、体力増強について」閣議決定され、1965年以降、国民が家族連れで日常気軽に体力づくりの運動に親しめる「国民広場」を大都市周辺の河川敷地を利用して設置することが打ち出され、国により淀川と木曽川の河川敷地に国営公園が整備されました。

当財団では、地域住民の河川利用の促進や健康増進を図ることを目的に、都市部における貴重なオープンスペースであり自然環境が残された空間である河川敷を活用し、水辺環境の向上を図るとともに、安全で安心してスポーツや河川学習、自然体験を行う事ができる河川健康公園を、豊平川、荒川、多摩川、庄内川に整備し、淀川、木曽川の国営公園とあわせ運営・管理を行っています。

【豊平川・雁来健康公園】

豊平川雁来健康公園は札幌市白石区の豊平川右岸の河川敷地内に整備されました。ゴルフのショートコース（9ホール、計1,118ヤード）、ゴルフ練習場（35打席、350ヤード）、テニスコート（3面）、野球場（2面）、ゲートボール場、公園広場があります。

ゴルフコースは1ラウンド9Hが1,300円、ゴルフ練習場の打放しが1球7円（ともに平日一般料金）とリーズナブルな価格設定で、バンカー・アプローチ練習場（30

分100円）、パッティング練習場（無料）と施設も充実しており、スコアアップを目指すゴルファーの練習にはもってこいの場所です。高齢者や18歳以下、女性や身障者には優待制があり、これらの利用者層の利用促進を通じて地域住民の健康増進に一役買っています。また、今年改修整備され快適になったテニスコートや野球場も安価な価格設定、ゲートボール場や公園広場は無料です。

地域柄、残念ながら冬季は利用できませんが（時期は施設により若干異なりますが概ね12月～3月は営業中止）、残り少ない晩秋を豊平川の河川敷で過ごしてみたいかがでしょうか。



豊平川・雁来健康公園ゴルフ場ショートコース

【荒川・扇健康公園】

扇健康公園は都心からも程近い東京都足立区扇1丁目の荒川左岸の河川敷に位置し、ゴルフ練習場、野球場1面、テニスコート2面、自由広場等をもつ、都会のオアシス的な運動スポットとなっております。

広大な河川敷に置かれたゴルフ練習場は32打席300ヤードと開放感あふれ、1球10円（平日一般料金）という廉価さも人気の一因です。こちらも18歳未満及び



荒川・扇健康公園 ゴルフ練習場

65歳以上、学生、身障者には回数券の優待料金があり、ジュニアゴルファーの技術向上や高齢者等の健康増進に貢献しております。別記事のように当財団主催の夏休みジュニアゴルフレッスン会も開催されました。天気の良い休日には少年野球の子供たちやテニスを楽しむ人たちの歓声で賑わっています。

【川崎・多摩川河川公園】

多摩川の右岸、川崎市に位置する多摩川河川公園は、川崎市幸区にあるゴルフ場「川崎リバーサイドパーク」と、丸子野球場（川崎市中原区上丸子天神町）、諏訪第一、第二野球場（神奈川県川崎市中原区等々力3）の3面の野球場からなります。

川崎リバーサイドパークは全9ホール、計2,322ヤードのショートコースで、気軽に楽しめる河川敷ゴルフ場として人気を博しています。こちらも地元の小中学生を



多摩川健康公園 諏訪野球場

対象に夏休みゴルフレッスンが行われました。

近年管理棟や野球場を改修するなど老朽化施設は逐次更新し、快適にスポーツを楽しめる環境を整えています。

【庄内川幸心健康公園】

庄内川幸心健康公園は名古屋市守山区幸心地先、庄内川左岸の河川敷に“地域住民の健康づくりの場”として整備された公園です。

350ヤード50打席の開放感あふれるゴルフ練習場（70歳以上のシニア、15歳未満のジュニア、障害者の方を対象にした優待あり）、少年野球の県大会会場としても使用されるソフトボール場。児童広場やグラウンドは、地元の保育園や幼稚園が園外活動に利用する際には遊具の無料貸し出しや優先予約の便宜を図るなど、地元の皆様への還元を図っています。



幸心健康公園 児童広場

報告事項 1 (調査研究等)

1. 「第10回河川環境管理財団研究発表会」の開催

財団の研究成果を広く周知するために研究発表会を毎年開催しています。今年は、7月19日砂防会館別館を会場とし、国土交通省職員、地方自治体職員、建設コンサルタント、大学関係者等150名を超える方の参加を頂きました。研究発表会は、自主研究や受託業務の中で行った調査研究の中から6課題の発表を行いました。ご参加の皆様から頂いたご意見は、今後の研究に生かしていきたいと考えております。

また、筑波大学生命環境科学科の恩田裕一先生から、「福島原発事故由来の放射性物質の河川環境への影響」と題して講演をいただきました。

先生は、福島原発事故直後から放射性物質の土壌や河川等の自然環境における移行状況の調査研究に取り組んでおられ、興味深いお話が聞けました。

(担当：企画調整部)



2. 「河川研究セミナー」をシリーズ開催

当財団では、昨年度まで開催していた河川環境研究会を改編し、新しく河川研究セミナーを設け、最先端の研究動向等を紹介することによって、シーズ調査と普及活動を進めることとしました。今年度は、国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部長の藤田光一氏に講演をお願いして、計4回のシリーズで開催をしています。

第1回は、平成24年5月30日(水)に、「リスクを意識した治水技術体系の展望と課題 ～“想定外に備えること”の難しさの克服にどうつながるのか?～」についてでした。

・治水施策の新たな展開に関する議論として、従来の施策群を包含しつつ「国土が抱えているリスクを踏まえた総合的減災という施策体系への移行」が掲げられますが、その実現は机上の議論が活発になされるのに比して、様々な重い課題を背負うことに進展します。また、このことは、国や地域のありように本質的な転換を促す側面も持っているということです。こうした認識を享受するための具体的事例を挙げながら、リスクをより強く意識した体系への展開がいよいよ重要な技術政策課題になってきている背景と理由を説明されました。次に、実務への定着という観点から、治水分野を例に、いくつかの試算例も示しつつ、リスクを土台においた施策体系が実のあるものとなるための要諦と隘路突破のための具体的な技術課題を述べられました。



第2回は、平成24年7月25日(水)に、「津波防災地域づくりを支える技術展開の動向 ～政策フレームと技術との相互補完性をどう考えるか～」についてでした。

・津波防災地域づくりに関する法律が昨年12月に成立・公布・施行され、多重防護の考え方にに基づき、ハード・ソフト一体となって東日本大震災による地震津波災害からの復旧・復興に、そして我が国全体の地震津波に対する防災・減災に取り組む新たな枠組みがつけられました。これに伴い、土木技術を含む幅広い分野で新たな技術展開が必要となり、関係機関で精力的な取り組みがなされているところです。こうした一連の取り組みを支える技術等の新しい動向について、現場での実践状況の説明も交え、復旧・復興に果たす技術の役割と分野間連携の重要性、今後のさらなる展開に向けての課題や方向性について述べられました。

第3回は、平成24年9月26日(水)に、「河道・河

川構造物の管理効果の見える化技術の進展と課題 ～管理の効能をどこまで数字で語れるか? 語るべきか?～」についてでした。



・河道掘削や樹木管理、堤防除草に代表される種々の管理の取り組みが、なぜ、どのように必要か?を説明するために、より一層説得力のあるロジックが求められています。この説明には、個々の技術的評価手法の拡充が必要なのはもちろん、河川の技術体系のあり方や河道管理に取り組む技術者のありようにまで検討の幅を広げることが求められます。こうした認識に基づき、具体的事例を挙げながら、見える化技術の進展と課題について述べられました。

また、第4回は、平成24年11月28日(水)に、「気候変動適応：我が国が置かれた状況と目指す方向 ～治水の発展段階に応じた類型化の試み～」と題して講演を頂く予定です。

(担当：研究第3部)

3. 河川塾(初等科・高等科)活動報告

平成24年8月22日に、第8期目となる河川塾初等科(塾長：河川環境総合研究所 山本所長)の現地視察会を実施しました。河川塾初等科は河川技術者の技術力の研鑽を目指して開催しており、民間コンサルタントや大学生等の公募者(総勢17名)が塾生として参加しています。

今回の現地視察会は、多摩川のセグメント2-1および2-2(登戸～丸子橋下流、約13km)を踏査しました。多摩川の歴史、堰や水制等の各種構造物の説明にはじまり、河床材料や砂州の状況、植生の生育状況などの読み解き方など、現地の実例を前に塾長からの解説により今までとは違った視点から川を見ることができ、座学よりも強く川の特徴を実感し、理解を深めることができました。

また、初等科卒業生および有志による河川塾高等科も開催しており、第6期となる本年度は「総合土砂管理」をテーマとして取り上げ、現在の流砂系における土砂動態の実態把握手法の問題点と解決の方向性、総合土砂管理の方向を探るための検討を行い、総合土砂管理論を構想する活動を行っています。

9月13日には安倍川を対象河川とし、土砂生産域である上流部から中流域の河道部および河口部、そして静岡海岸・清水海岸までの流域の視点による現地踏査を行



河川塾初等科
現地研修（多摩川）



河川塾高等科
現地調査
（静岡県安倍川）

い、河床材料の岩質と形状の変化等を感じ、安倍川の砂防・河川および海岸の総合土砂管理に関する問題意識を高めるとともに幅広い知識を得ました。

（担当：研究第2部）

4. H23年度優良業務及び優秀技術者表彰

関東地方整備局京浜河川事務所より、優良業務及び優秀技術者表彰を受賞しました。

（業務名） H23 管内維持管理計画検討業務

（管理技術者） 戸谷 英雄

なお、この業務は（株）建設技術研究所との設計共同
体で実施した業務です。

（担当：総務部）

報告事項 2（河川教育関係）

1. 平成 24 年度「全国中高生子ども水フォーラム～未来につなぐ水のリレー～2012」の開催

今年、8月7日（火）～8月9日（木）、「千葉県立君津亀山少年自然の家」において、水や川に関するさまざまな活動を実践している全国の中・高校生を対象とした「全国中高生水フォーラム～未来につなぐ水のリレー～2012（旧名称：世界子ども水フォーラム・フォローアップ大会）」が開催されました。全国からの応募作文により選ばれた中高生 29 名が、運営スタッフ（ファシリテーター、記録係、事務局スタッフ）のサポートにより「水による災害（洪水や津波、土砂災害等）」や「安全な川での体験活動」など、水に関する5つのテーマについて議論しました。運営スタッフ 12 名の内6名はフォローアップ大会経験者であったことから、相互に良い協力関係が出来ており、3日間という短い期間にもかかわらず、大会は円滑により効果的に進行しました。

2日目の交流会では、参加者がチームを組み『マシュ



交流会の様子



「全体発表会」
発表の様子

マロ・チャレンジ』という競技を楽しみました。これは、20本のスパゲッティとテープと紐を用いて自立する建物を作り、その一番上にマシュマロを乗せて高さを競うもので、子どもたちだけでなく大人チームも真剣に取り組んでいました。

また今回の大会では、平成 24 年 3 月にフランス・マルセイユで開催された「第6回世界水フォーラム」大会に日本代表として派遣された4名の中高生が『マルセイユ大会の報告』を行いました。

なお、運営スタッフの事前研修から大会中の様子までを、4分半ほどのショートムービーにして下記 Youtube にアップしております。是非ご覧ください。

<http://www.kasen.or.jp/info/info.asp?infoid=416>

（担当：研究第1部）



「全国中高生水フォーラム～未来につなぐ水のリレー～2012」の参加者

2. 「子ども森水キャンプ」の開催

昨年に引き続き東日本大震災で被災した子どもたちを支援するための取組みとして、本年8月に宮城県の「国立花山青少年自然の家」を拠点として「子ども森・水キャンプ」を実施しました。

実施にあたっては、昨年度の経験と反省を活かし、滞在期間を1日ふやし、内容も少しレベルの高いチャレンジプログラムを追加しました。

「子ども森・水キャンプ」の実施概要は、下記のとおりとなります。

◇計画概要

- ・日時 平成24年8月21日(火)～24日(金) 3泊4日
 - ・場所 「国立花山青少年自然の家」及び周辺の「砥沢」、「花山湖」
 - ・参加者 小学生2年生～6年生の26名（募集は、釜石市及び南三陸町から30名を予定）
 - ※昨年は、釜石市と南三陸町は別の日にちに実施。
 - ・スタッフ構成
 - NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会（RAC）本部 RAC 加盟の東北地域の指導者による「RAC・東北被災地応援プロジェクトチーム」
 - ※文教大学の学生がキャンプリーダーとして協力（昨年のメンバーも3名参加）
- 財団法人河川環境管理財団・子どもの水辺サポートセンター

◇実施概要

・1日目 子どもたちは、釜石市と南三陸町からそれぞれバスで花山青少年自然の家に集まり、午後からキャンプがスタートしました。子どもたちは5班編成にグループ分けされ、それぞれの班には釜石市と南三陸町の子どもたちが一緒になるようにし、男子が4班、女子が1班となりました。

はじめは、知らない友達に戸惑いが見られましたが、キャンプリーダーのもとで名札づくりやアイスブレイクを進めるうちに打ち解け、「冒険の森」でのいろいろなプログラムでは、本来の子どもたちの元気がでてきました。

・2日目 砥沢を遡行しながらの沢遊びをおこない、昨年のコースより少しグレードアップしたコースとしましたが、すばらしい天候にも恵まれ全員全コースを元気に登りきりました。

このプログラムでは、子どもたち同士の仲間意識とお互いが助け合い、思いやる姿勢が見られるようになりました。

・3日目 花山青少年自然の家から車で10分ほど下ると広い湖面を持つ「花山湖」があります。今回は、この花山湖でのEボート体験のプログラムを行ないました。

子どもたちは、Eボートは初めてということで、全員

を4チームに再編成し、それぞれEボートの組み立て、湖面での操船、後片付けまでを体験してもらいました。

湖面での活動は、操船だけではなく、Eボートから飛び込んだり、湖面めぐりなどバックアップチームが心配するほど長時間楽しんでいました。

夕食は、野外炊飯で、キャンプチームとスタッフチームの6チームでカレーライスとピザづくりを行ない、途中夕立もありましたが楽しい夕食となりました。

夕食後は、雨の心配もなくなり雲間から月も顔を出し、キャンプファイヤーで楽しいひとときを満喫しました。

・4日目 昨年より1日長くした3泊4日の合宿でしたが、あっという間の4日間でした。プレイホール（体育館）で思いっきり遊んだ後に、ふりかえりの時間、昼食を済まし、子どもたちは全員元気にバスに乗り帰って行きました。

ふりかえりの時間では、子どもたちからまた参加したいとの多くの声がありました。



1日目の「冒険の森」にて



2日目の「砥沢」のゴール地点で全員集合



3日目の「花山湖」のEボート体験



4日目の参加者全員による笑顔の集合写真

(担当：研究第1部)

3. 「川の指導者(RACリーダー)養成講習会」の開催

「川に学ぶ」社会をめざすためには、次世代を担う子どもたちに川や水辺を活かした学習や体験活動をおとし、川に関心を持ち理解してもらうことが重要です。

しかし、川や水辺には内在するさまざまな危険も存在することから、これらの危険を正しく理解し対処できるスキルを身につけ、安全に楽しく指導できる川の指導者の育成も不可欠です。

当財団は、子どもの水辺サポートセンターを中心として、河川教育の普及・推進を図る一環として、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会（通称：RAC）認定の川の指導者（RACリーダー）養成講習会を毎年度開催しています。

財団本部主催のRACリーダー養成講習会の開催概要は下記のとおりとなりました。

・講習会参加者

RACリーダー講習受講者 8名
（全員RACリーダー講習を修了しました。）

スキルアップ参加者 2名

実習時バックアップ 3名

・日程及び講習内容

6月15日（金）日本橋消防署において「安全対策について」の一環として普通救命講習（心肺蘇生法、



荒川・長瀬下流部における実習の様子

安全対策についての講習の様子



荒川・長瀬付近での生物調査の実習

AED使用法）の講義と実習を行いました。（救命技能認定書が授与されました。）

6月15日（金）当財団会議室にて「川に学ぶ体験活動の理念」、「対象となる参加者を知る」、「プログラム作りの基礎知識」の講習と実習を行いました。

6月16日（土）荒川上流の長瀬に会場を移して、「安全対策について」、「川に学ぶ体験活動の基礎技術」、「川に学ぶ体験活動の指導法」の講義と実習を行いました。

6月17日（日）長瀬付近をフィールドとした「川という自然の理解」及び「川と人、社会、文化の関わり」の講義と実習を行いました。

（担当：研究第1部）

4. 「川に学ぶ体験活動全国大会 in みちのく」の開催

川に学ぶ体験活動協議会（通称：RAC）は、全国の川に関わる活動を実践している市民団体等が集まり、平成12年9月に設立された団体です。

平成13年度より、RAC加盟団体や関係機関・関係者が一堂に会して情報交換や交流の機会となる「川に学ぶ体験活動全国大会」を全国各地で開催しています。

12回目となる本年度は9月15、16日の2日間、北上川の上流に位置する岩手県盛岡市で開催されました。東日本大震災の被災地域である東北のメンバーが中心となり、「川なかまの絆で、東北の復興を!!」をスローガンに、水辺体験の有意義さを全国発信するとともに、水辺体験活動を通じて被災地応援を行いました。

1日目の基調講演は学習院大学 赤坂教授による「震災と山野河海」。忘れられていた神社の意味、土地の歴史など、生活と自然との関わりが東日本大震災によって顕在化しており、これらを改めて意識するとともに現代



赤坂教授による基調講演

100人で北上川下り!



の社会構造を考慮した復興シナリオの必要性が語られました。その後、「震災からの復興・新しい地域づくりに向けて」をテーマとしたパネルディスカッション、東北や全国の川での活動報告が行われました。

2日目は「防災」を全体テーマとした分科会が行われ、今後のRACの役割として「行政と民間の橋渡し」、「これまでの経験を活かした防災教育活動への展開」などがまとめられました。午後に行われた総勢80名以上による北上川川下りは壮観であり、川仲間の絆とパワーを感じた瞬間でした。

次回の全国大会は、新潟県見附市にて平成25年10月12～14日に開催される予定です。

(担当：研究第1部)

5. 「全国の水難事故マップ」の更新

当財団の「子どもの水辺サポートセンター」では、平成14年の設立以降、全国の川や水辺での学習や体験活動の普及・促進を図るために、さまざまな取り組みや支援を行っています。川や水辺には、さまざまな危険が存在しており、楽しく遊び、学ぶためには安全を最優先した取り組みが不可欠です。

そこで、水難事故を防ぎ安全な河川利用に向けた啓発を行うために、全国の川で発生している水難事故事例を新聞記事やインターネットニュースから独自に収集・分析してきました。平成21年の7月には、平成15年から20年の6年間に収集した水難事故の発生箇所と事故概要を整理し、Googleマップ上に表示した「全国の水難事故マップ」としてホームページで公開し、その後の年次更新を行い、本年7月には平成22年における事例を加え、現在、1,710件を公表しています。

「全国の水難事故マップ」は公開後、大きな反響を呼び、NHKなどのマスコミにも取り上げられ、水難事故防止に向けた取り組みにつながったのではないかと期待しています。

このような状況のなか、河川利用者に対してより効果的に啓発を行い、河川等の現場でも検索可能となるよう

携帯電話対応のモバイルサイト「全国の水難事故マップ モバイル」を、昨年開設しました。

「全国の水難事故マップ モバイル」には、水難事故事例の検索機能としてGPS検索機能を付加し、現在地周辺での水難事故事例が確認できるようになりました。

これらの機能により、河川利用者が現地で携帯電話を使ってその場所の水難事故の状況等(過去にその場所で、どんな水難事故があったのか)を確認し、その場所で起こった水難事故を教訓に、自発的に安全な河川利用を行えるようになることを期待しています。

「全国の水難事故マップ モバイル」へは、右下のQRコードからアクセスしてください。



全国の水難事故マップモバイル
(表示例)

全国の水難事故マップの
トップページ



QRコード

(担当：研究第1部)

公園・施設管理コーナー

1. 「ゴルフ・ジュニアレッスン」を開催しました

当財団の公益事業の一環として、ジュニア育成等を目的としたゴルフ・ジュニアレッスンを多摩川と荒川・扇の両健康公園において開催しました。

【多摩川健康公園川崎リバーサイドパーク(ゴルフ場)ジュニアラウンドレッスン】

平成24年8月21日(火)に小学校2年生から中学2年生まで18名(男子10名、女子8名)が参加しました。1パーティにティーチングプロ、川崎市ゴルフ協会委員が1人ずつつき、プロには技術を、委員からはマナーを



学ぶという手厚さに、ジュニアからは満足感を、保護者の方には安心感を感じて頂けました。この成果を踏まえて、来年の春休みのイベントでは、より幅広くジュニアを募り、より喜んで頂けるプログラムやイベントを提案、開催をしていきたいと思ひます。

【扇健康公園ゴルフジュニアレッスン】

平成 24 年 8 月 26 日（日）に小学校 3 年生～中学 2 年生までの足立区在住ジュニア 8 名（男子 3 名、女子 5 名）が参加し、レッスンプロがそれぞれのジュニアのレベルに合わせた指導を行いました。また、ゲーム要素を交えた飽きさせない趣向も凝らされ、参加者に大変満足して頂ける内容となりました。今後は足立区の広報誌や HP 等で広く告知をし、より多くのジュニア参加者を募る予定です。



（担当：東京事務所）

2. 改修整備した雁来健康公園は利用者から大好評！

当財団が管理する豊平川（札幌市）の健康公園（野球場、ゴルフ練習場、テニスコート等）は、より快適に利用していただけるよう老朽化した野球場、テニスコートを昨年 10 月に改修整備しました。

今年の春から本格的な公園利用が行なわれ、野球場は 300 団体 1 万人以上の方に利用されている等、昨年度と比べて野球場、テニスコートとも利用申込み団体、利用者とも増えています。

利用された方からは、芝生やコートの張替え、スコアボードやベンチの改築でとても快適に利用できたとの声を戴いております。

これからも健康公園の利便性、快適性の向上に向け、公園内施設の充実を図って、更に多くの方々が、より快適に利用していただけるよう、努めたいと思ひます。

なお、この野球場、テニスコートは、宝くじ助成事業により改修整備されたものです。



野球場利用状況



テニスコート利用状況

（担当：北海道事務所）

3. 庄内川幸心健康公園施設撤去訓練実施

平成 24 年 5 月 9 日、洪水に備えた施設撤去訓練を公開で実施しました。

幸心健康公園において、庄内川河川敷で占用



許可を受けている他のゴルフ場関係者の見学のもと、洪水に備えた施設の撤去訓練を実施しました。

庄内川の洪水を支障なく流下させるため、公園内に設置された施設の搬出及び転倒を実戦しながら行いました。

(担当：名古屋事務所)

4. 平成 24 年度木曾三川連合水防演習・複合型災害防災訓練にブースを出展

平成 24 年 5 月 27 日、国土交通省外 9 組織主催の長良川右岸で行われた木曾三川連合水防演習・複合型災害防災訓練に河川環境管理財団として初めてブースを出展し、「安全な川遊び」のパネル・ビデオ放映、チラシ配布及び E ボートを展示しました。



(担当：名古屋事務所)

5. RACリーダー・Eボート指導者養成講座を開催(平成24年7月14日～平成24年7月16日)

RACリーダー・Eボート指導者養成講座を名城大学谷口義則准教授らの指導のもと国営木曾三川公園内及び木曾川において 3 日間にわたり実施しました。



受講者は、大阪や沼津からの参加者を含め 9 人でしたが、川の自然を理解する講義・川で安全に遊ばせる方法・救命講習さらには E ボートの実技などを受講し、リーダーとして活躍する心構えを得て、無事に終了しました。

(担当：名古屋事務所)

6. 木曾川 長良川 自然観察会を開催(平成24年9月16日実施)

国営木曾三川公園自主事業として、木曾川・長良川背割堤において、親子 14 名の参加で自然観察会を開催しました。

木曾三川公園長良川サービスセンターにてガイダンス

を行い、長良川を E ボートで横断し、木曾川・長良川背割堤で、自然観察指導員及び河川管理者による植物・昆虫・鳥・河川施設の説明を受けながら自然の観察を行いました。



当日は天候にも恵まれ昆虫や植物など種類も多く、子供たちはトンボ等を追いかけたり、植物を使った遊びに夢中でした。

(担当：名古屋事務所)

7. 第95回淀川自然を楽しむ会開催報告

猛暑日の 7 月 21 日、約 300 名の家族連れが淀川河川公園十三野草地区の干潟でシジミ採りを楽しみました。淀川のシジミはヤマトシジミで



水生生物を見る子供達

殻が茶色、直径 3 cm と大粒で関西圏ではブランドです。投網でとれた水生生物の紹介、シジミ殻のストラップ、シジミ汁の試食、葦のコースター作りなど子供達が楽しく、熱心に一日を過ごしました。写真は水生生物の説明を受けている子供達の風景です。

(担当：大阪事務所)

8. 平成24年度河川美化・緑化助成事業(植樹)の決定

河川美化・緑化助成事業は、公益社団法人ゴルフ緑化促進会と連携し、我が国の国土を緑で美しくする運動の一環として行っています。ゴルファーの皆様の協力金によって河川やその周辺における植樹等への助成を行い、河川環境の向上に寄与しようとするものです。

平成 24 年度の助成事業については、6 月から 8 月にかけて公募し、選考委員会の審議を経て決定しました。全国 7 水系 12 箇所、約 1,500 万円の事業費をもって植樹される予定です。

(担当：企画調整部)

河川整備基金コーナー

1. 平成 25年度河川整備基金助成事業の募集

平成 25 年度河川整備基金助成事業の募集を下記のとおり行います。

なお、今年度からインターネットによるオンラインによる申請のみとなります。

募集開始：平成 24 年 10 月 1 日（月）

募集締切：平成 24 年 11 月 30 日（金）18 時まで

（担当：研究第 1 部）

上記期間を過ぎると、申請を受け付けることができませんので、ご注意ください。

申請書様式等につきましては、当財団のホームページに掲載しています。

35 歳以下の若手研究者を対象とした分野の新設、助成限度額の見直し、助成対象範囲の拡大、申請書様式の見直し等がありますので、詳細については当財団のホームページをご覧ください。

出版紹介

1. 「川を活かした体験型学習プログラム」

昨年 2 月に「川を活かした体験型学習プログラム」を発売しました。

本書は、小学生が川をフィールドとして、安全に楽しく学び遊ぶさまざまな体験活動の指導書として、小学校の学校現場でも利用できるように作成したものです。「体験型学習プログラムの開発に関する研究会」角屋重樹広島大学大学院教育学研究科教授（現在、文部科学省国立教育施策研究所教育課程研究センター基礎研究部長）を座長に、小学校長等の教育関係者が構成を監修していただきました。

本書の構成は、まず小学校での体験活動の実践事例を紹介し、さらに、学校現場での実践にあたっては、参考となるように 6 つの分野に関する 32 のプログラムをわかりやすく掲載しています（下記参照）。

- 水辺体験学習と育成される力
- 体験学習としての川の魅力
- 各教科に関連した川を活かした体験学習の実践例（小学校 12 校）
- 川を活かした体験型学習プログラム
 1. 川や水を感じる
 2. 川や水辺の環境を調べる
 3. 川や水辺の生き物を調べる
 4. 環境保全・改善について
 5. 洪水の怖さや防災について
 6. 川と地域の歴史や文化について
- 体験型学習の支援体制等の関連資料



本書の販売は全国の書店にて、定価 2,310 円（税込）で行っておりますが、当財団に直接申し込み頂いた場合には（メール：mssc@mizube-support-center.org）、2,000 円（税込・送料は別途）で販売しております。

（担当：研究第 1 部）

2. 「水辺の安全ハンドブック(改訂版)」

平成 23 年度、安全に楽しく河川を利用させていただくために、内容を大幅に充実・改定し従来の 24 ページから 32 ページとして新たに発売しました。

川や水辺をフィールドとした活動は安全が最優先とした啓発を図っている一方で、痛ましい水難事故が毎年発生している状況から、平成 12 年度に水難事故防止に向けた啓発資料として「水辺の安全ハンドブック」を作成し、その後、一部改定や増刷を繰り返し、全国の子どもたちをはじめ多くの河川利用者に活用していただいています。

販売価格は、1 冊 100 円（税込み）としました。申込方法は、当財団又は子どもの水辺サポートセンターのホームページをご覧ください。

<http://www.mizube-support-center.org/contents/handbook.html>

「水辺の安全ハンドブック・目次」

1. 川の楽しさ
2. 川に学ぶ
3. 川で遊ぶ



4. 川を知る
5. より楽しく安全に (準備)
 - より楽しく安全に (服装・装備)
 - より楽しく安全に (気象情報を集めよう)
 - より楽しく安全に (講習を受けよう)
 - より楽しく安全に (活動場所の細かな情報を集めよう)
 - より楽しく安全に (川で遊ぶときのマナー&注意事項)
6. 子どもの水辺サポートセンター
7. NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会 (RAC)
8. 川の防災情報・気象情報・全国の水難事故マップ
9. 川や水辺でのさまざまな活動を支援するサイト一覧
(担当：研究第1部)

3. 「安全な川遊びのために」 DVD配布(継続)

川や水辺にはさまざまな危険が内在しており、毎年のように起こる痛ましい水難事故の事例を分析すると、川に内在する危険を予知・予見する知識や判断力を身につけ、必要最小限の対応をしていれば防止できたのではないかと考えられる事故も多く見受けられます。

特に、川に内在する危険として、水の流れには、地形や川の形状とともに流量の変化等から見た目には分からない複雑な流れが存在し、この複雑な流れに遭遇し、事故につながる事例が多く見受けられます。

このため、日本宝くじ協会の助成を受けて、水の流れ等を映像で見て、より正しい理解と認識を得るための

DVD「安全な川遊びのために」を制作し、多くの子どもたちや河川利用者に活用していただくために、全国の学校や川で活動する市民団体等に配布しました。

DVDの内容は、「子ども向け」(第1部)と「指導者向け」(第2部)の2部構成になっています。川へ出かける前には是非ご覧下さい。



このDVD「安全な川遊びのために」は無料(送料は別途)で配布しております。

詳しい申込方法は、河川環境管理財団ホームページをご覧ください。また、子どもの水辺サポートセンターホームページからは、映像データをダウンロード、または閲覧することもできます。

- ・河川環境管理財団ホームページ：
<http://www.kasen.or.jp/work/result05.html>
- ・子どもの水辺サポートセンターホームページ：
<http://www.mizube-support-center.org/contents/dvd.html>

(担当：研究第1部)

お知らせ・募集

1. 「第19回河川整備基金助成事業成果発表会」のお知らせ

この発表会は、前年度の助成事業成果報告の中から、助成事業成果報告書評価委員会で「広く周知し活用していくべき成果」と評価されたものについて、成果の社会還元を目的に毎年開催しています。

発表会では、現地における研究者等の最新の研究成果が発表され、毎回活発な意見交換が行われていますので、是非ご参加ください。

- ・日 時 平成24年10月25日(木) 13:00～18:00
(予定)
- ・会 場 TKP小伝馬町ビジネスセンター 301号室
東京都中央区日本橋小伝馬町1-4
小伝馬町ビル
- ・最寄駅 小伝馬町駅(地下鉄日比谷線)

3番出口徒歩1分

- ・主 催 (財)河川環境管理財団
- ・参加費 無料

(担当：研究第1部)

2. 河川整備基金助成事業研究成果表彰

助成事業による研究成果の普及を充実させるため、毎年度実施する前年度助成研究成果の表彰とは別に、助成研究者のさらなる研究奨励を図るために平成23年度に創設した新たな制度です。

河川、ダムに関する学術及び技術の進歩を通して、河川、ダム事業やそれを取りまく社会に対して卓越した業績が認められる学術貢献成果及び技術開発成果を上げた助成研究者に対して行うものです。

理事長賞、理事長奨励賞及び河川環境総合研究所長賞、

河川環境総合研究所長奨励賞があります。奨励賞は、35歳以下の若手研究者を対象としたものです。

第1回目となる平成24年度は、平成23年度に募集を行い応募があった10件について、審査を行った結果、下記のように受賞者が決定しました。（「」内は、対象となった助成事業名です。）

【理事長賞】

東京工業大学大学院 教授 石川忠晴
「利根川下流河道における細粒底質の動態と質的変化に関する調査」

【河川環境総合研究所長賞】

埼玉大学大学院 教授 田中規夫
「侵食により破壊される樹林帯と安定樹林帯の分類に基づく流木発生・捕捉指標に関する研究」

【理事長奨励賞】

北海道大学大学院 研究員 本多健太郎
「北海道利寒辺牛川水系に生息するイトウの季節変動に伴う移動生態の解明」

※受賞者については、第19回河川整備基金助成事業成果発表会において表彰を行うと共に、理事長賞の受賞者については、記念講演を行います。

（担当：研究第1部）

3. 河川環境管理財団地方事務所研究発表会の開催案内

河川環境管理財団では、河川整備基金による助成事業の成果を広く公開し、河川に対する国民的理解を深めると共に、助成事業の充実を図るため、河川整備基金事業成果発表会を名古屋事務所及び近畿事務所において開催します。

（1）名古屋研究発表会

河川環境管理財団の研究成果並びに河川整備基金助成事業成果発表会を「第6回 河川環境管理財団 名古屋研究発表会」として以下により開催します。

- 開催日時 平成24年11月21日（水）13：00～17：30（予定）
- 開催会場 愛知県産業労働センター
「ウインクあいち」1001会議室
名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL 052-571-6131
- アクセス
・JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分
・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分
- 定員：150名

（担当：名古屋事務所）

（2）近畿研究発表会

近畿事務所においては、当財団の成果発表とあわせ、河川整備基金事業成果の発表会を下記の通り開催する運びとなりました。多くの方々のご来場をお待ちしております。

- 開催日時：平成24年12月3日（月）10：00～17：00（予定）
- 開催場所：OMMビル2F会議室
大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル
- アクセス：地下鉄谷町線「天満橋駅」1番出口よりOMMビル地下2Fに連絡／京阪電車「天満橋駅」東出口よりOMMビル地下2Fに連絡
- 定員：180名

（担当：近畿事務所）

4. 河川技術研修会の開催案内

河川整備基金による助成を受け、中部河川技術研修協議会、近畿河川技術研修実行委員会の主催により、河川技術研修会がそれぞれ下記の通り開催されます。

なお、これらの協議会、実行委員会は、地方整備局、府県、関係団体等で構成されています。

（1）中部河川技術研修会

- 開催日：平成24年12月3日（月）～4日（火）
- 開催会場：愛知県産業労働センター
「ウインクあいち」1001会場
名古屋市中村区名駅4丁目4-38
- アクセス：・JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面徒歩5分
・ユニモール地下街5番出口徒歩2分

（担当：名古屋事務所）

（2）近畿河川技術研修会

- 開催日：平成25年1月24日（木）～25日（金）
- 開催会場：近畿地方整備局第1別館
大阪市中央区大手前1-5-44
大阪第一合同庁舎敷地内
- アクセス：・地下鉄谷町線「天満橋駅」3番出口 徒歩2分
・京阪本線「天満橋駅」東口徒歩5分

（担当：近畿事務所）

5. 「平成24年度川に学ぶ全国事例発表会」の開催

当財団の子どもの水辺サポートセンターでは、子どもたちの川や水辺を活かした学習や体験活動を普及・推進

する一環として、全国の学校や市民団体等が取り組んでいるさまざまな活動事例の発表の機会となる「川に学ぶ全国事例発表会」を毎年度開催しています。

発表事例は、平成 23 年度河川整備基金の助成事業のうち、国民的啓発運動部門の優秀成果として表彰された中から「川と人々のかかわりを深めるための河川愛護活動・河川環境学習・人材育成」をテーマとした 5 事例、「小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動」をテーマとした 5 事例を予定しています。

なお、事例発表と併せて、一般参加者も含めたパネルディスカッションならびに意見交換の機会も設ける予定です。皆様が日頃感じている課題の解決と参加者間の交流の場となりますので、是非ご参加ください。

第 11 回となる「平成 24 年度 川に学ぶ全国事例発表会」は、下記の日程と会場で開催する予定です。

- ・開催日時：平成 25 年 1 月 18 日（金）10：00～17：00
- ・会場：TKP 小伝馬町ビジネスセンター 4 階
（東京都中央区日本橋小伝馬町 1-4）



平成 23 年度
全国事例発表会



平成 23 年度
全国事例発表会
意見交換会

（担当：研究第 1 部）

6. 第 12 回「プロジェクト WET ファシリテーター講習会」の開催

アメリカで開発された水に関する教育プログラムであるプロジェクト WET（Water Education for Teachers）は、当財団がプロジェクト WET インターナショナルとライセンス契約を結び、「プロジェクト WET ジャパン」として、日本国内で唯一の普及啓発機関となって指導者の育成や普及活動を展開しています。

プロジェクト WET のプログラムを使用するには、エデュケーター養成の講習会を修了する必要があります。

現在、国内には 6,100 人余りの方がエデュケーターの資格を有しています。

このエデュケーター養成講習会を開催できる資格を有

する人を、ファシリテーターと称しますが、これには、エデュケーターとしての指導実績に加え、コーディネーター（プロジェクト WET ジャパンの代表）が開催するファシリテーター養成講習会を受講し、修了する必要があります。現在、国内のファシリテーターは 240 名となっています。

本年度のファシリテーター養成講習会は、下記の日程で開催する予定です。詳しくは、後日、プロジェクト WET ジャパンのホームページで紹介します。

- ・開催日程 平成 25 年 1 月 19 日（土）～20 日（日）
2 日間 場所：東京都内の予定



新アクティビティ
「海の生物圏」
実施の様子



第 11 回講習会で認定された新しいファシリテーター

（担当：研究第 1 部）

7. 「平成 24 年度プロジェクト WET & ワイルド合同全国大会」の開催

プロジェクト WET の姉妹プログラムとして、野生生物を題材とした環境教育プログラム「プロジェクト WILD」があります。

プロジェクト WET のエデュケーターやファシリテーターの多くは、プロジェクト WILD の資格も保有し、日頃の活動の中で、両方のプログラムを有効に活用しています。

このようなことから、平成 21 年度にプロジェクト WET とプロジェクト WILD の合同による全国大会を開催しました。この大会を通して、参加者のスキルアップや参加者同士のネットワークが構築されるなど大きな成果を上げることができました。

全国大会参加者から東京以外の場所でも開催して欲しいとの意見や要望を受け、第 4 回目となる本年度は下記のとおり愛知県内で開催する予定です。



新アクティビティ
「侵入者！」
実施の様子



第3回全国大会
お悩み相談
ミーティングの様子

《平成 24 年度（第 4 回）プロジェクト WET & WILD
合同全国大会（仮称）の開催概要》

- ・日 時 平成25年 1月26日(土)～27日(日) 2日間
- ・場 所 「ウィルあいち(愛知県女性総合センター)」
(愛知県名古屋市東区上堅杉町1)
市政資料館の南側の建物です。
- ・対象者 プロジェクト WET、プロジェクト WILD
のエducーター及びファシリテーター

(担当：研究第1部)

8. 第18回42.195km 淀川河川公園 リレーマラソン開催のお知らせ

淀川河川公園枚方地区のジョギングコースを中心にした1周2kmのコースを設定し、10人までのメンバーで42.195kmをタスキリレーで完走する大会です。

毎年約300チームが参加し、ファミリーチーム、コスプレチーム、社内チーム等とにかく楽しいマラソン大会です。今年は10月14日(日)に開催します。



昨年の第17回大会の様様

(担当：大阪事務所)

9. 淀川河川公園秋の緑化祭(植木市) 開催のお知らせ

10月の都市緑化月間活動の一環として毎年植木市を開催し、地域にお住まいの方に都市緑化推進の大切さを再認識して頂くとするものです。

淀川河川公園守口サービスセンター前広場で、植木即売・緑化相談・セリ市が催され、例年2,000人のお客さままでテントブースはごった返しの状況になります。

今年は、10月20日(土)21日(日)に開催予定で、地元FM放送局の取材もあります。



昨年の植木市の様様

(担当：大阪事務所)

編集発行  財団 法人 河川環境管理財団

編集事務局 企画調整部 担当：河崎、原

本 部 〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F)
<http://www.kasen.or.jp/>
E-mail:info@kasen.or.jp

総務部 TEL 03-5847-8301 FAX 03-5847-8308
企画調整部 TEL 03-5847-8302 FAX 03-5847-8308
研究第一部 TEL 03-5847-8303 FAX 03-5847-8309
研究第二部 TEL 03-5847-8304 FAX 03-5847-8309
研究第三部 TEL 03-5847-8305 FAX 03-5847-8310
東京事務所 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310
子どもの水辺サポートセンター TEL 03-5847-8307 FAX 03-5847-8314
<http://www.mizube-support-center.org/>
E-mail:msc@mizube-support-center.org

北海道事務所 〒060-0061
札幌市中央区南1条西7丁目16-2(岩倉ビル)
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953
<http://www.kasen.or.jp/hokkaido/>
E-mail:info-h@hkd.kasen.or.jp

名古屋事務所 〒463-0068
名古屋市守山区瀬古3丁目710番地
TEL 052-388-7891 FAX 052-388-7918
<http://www.kasen.or.jp/nagoya/>
E-mail:info-n@nagoya.kasen.or.jp

近畿事務所 〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31(OMMビル13F)
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118
E-mail:info-o@osaka.kasen.or.jp

大阪事務所 〒570-0096
大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内)
TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095
<http://www2.kasen.or.jp/>
E-mail:kohen@osakaj.kasen.or.jp